

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	クオール弘明寺教室		
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・クオール上大岡教室と連携しており、ライフステージに合わせたサービス提供ができています。	・定期的に事業所同士で連絡を取り合い、情報共有に努めています。	・管理者だけではなく、現場を統率する立場の人員も含めた情報共有の場を設けて良いと思います。
2	・児童発達支援と放課後等デイサービスを同じ時間帯にサービス提供することになるが、スケジュール支援を導入することで未就学児への療育は構造的に分けて提供することができるようになってきていること。	・スケジュール支援は、児童の認知発達レベルに合わせたものを提供しています。 ・視覚支援、見通しの支援ともに施設内で標準化されており、全児童が一貫して受けることができる環境を整えています。	・構造化された指導法について、職員のキャリアに応じた研修機会を設けていきます。
3	・年長児は小学校入学後も同じ時間帯、同じ人員でサービス提供が可能であり、環境変化に対する負荷が少なく済むこと。	・たとえ年長児であっても、軽々な判断では受入れをしておらず、慎重なアセスメントのもと未就学児の受入れをしています。 ・今年度の児童発達支援の受入れ人数は、ほぼ0名でした。	・児童発達支援の問い合わせ自体は多いため、体験利用のようなかたちで受入れの判断材料を増やすしくみをつくっています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・児童発達支援の受入れ経験がほぼないため、しくみとして整えてはいるものの、職員らの経験値が不足していること。	・クオール弘明寺教室の役割的には、必然的に未就学児の割合は少なくなります。	・必要に合わせて人事異動等も検討し、職員の経験の幅を広げていけるようにしていきます。
2	・高機能ASD児に向けたプログラムが多いため、重度～重度の知的障害のある児童には環境的に不向きであること。	・クオールの理念が高機能ASD児に向けた専門的なサポートであるため、他の社会資源に頼らざるを得ない状況にあります。	・自立支援協議会には積極的に参加していく他、計画相談等との連携も意識し、地域の社会資源の情報収集をしていきます。
3	・単位分けと施設内を仕切る壁はあるが、児童の人数が10名×2になるため、音や人の刺激を苦手とする児童には辛い環境になるかもしれないこと。	・閉鎖的にならないよう、施設の構造的に解放感のあるつくりとなっています。オープンスペースの取扱いに困難があるASD児の場合、解放的であることがかえって過ごしづらさにも繋がってしまうかもしれません。	・必要に応じてイヤマフを貸し出せるように準備しています。また、人の刺激が気になってしまう児童に向けては、パーテーションを設置し、個別のスペースが確保できるように整えています。